

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 4 月 27 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 17名	(依頼数) 17名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3871000224
事業所名 (ユニット名)	グループホーム森の園 Aユニット
記入者(管理者) 氏名	三好 功士
自己評価作成日	令和 2年 12月 28日

<p>【事業所理念】</p> <p>あの日 あの時 今その時を大切に 優しい心 敬う心 誠実な心で支援します</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>地域との関わりを多くする為、運営推進会議で出た場所への外出、地域の夏祭り、運動会、餅まきなど参加する機会を多く作った。職員の水準の向上の為、内外部の研修に出来る限り参加の機会を作ったが、もっと研修への参加は必要と思われる。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>特別養護老人ホームをはじめ、デイサービスなどを併設した高齢者総合福祉施設の建物の1階部分に事業所はあり、周辺は田園地帯が広がるなど自然豊かな環境にも恵まれている。現在のコロナ禍において様々な制限が設けられているが、環境を活かして利用者は自由に事業所の屋外に出て、敷地内を散歩するなどの気分転換が図れている。職員は、毎月実施する法人研修での学びの機会を持ち、意識の向上を図りながら利用者の自立支援に向けた取り組みを実践している。また、法人・事業所として、働きやすい職場環境づくりに取り組んでおり、職員の離職率も低い。なお、現在のコロナ禍において、訪問調査を数回延期せざるを得なかったこと、外部からの入室制限等を設けていることもあり、事業所外の建物を活用して聞き取り等の訪問調査を実施している。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時、面会時など家族様からの聞き取り、利用者との会話にて把握に努めている。	○	/	△	日々の会話や関わりの中で、職員は利用者の思いや意向を把握するように努めている。利用者から出された新たな要望や意向の変化については申し送り時にも伝達しているが、得られた情報を利用者のアセスメントシートに追記するなど、職員間で共有できやすい方法を検討することを望みたい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日々の利用者の行動、言動等の観察に努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入居時、面会、カンファレンス等の際に話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	行っている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員各自からの視点で観察を行い、日誌、記録、朝礼などを利用して行っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前、入居時に聞き取りを行っている。	/	/	○	入居に際して、職員は利用者や家族から生活歴や生活環境などを聞き取るほか、これまでのサービス利用の状況などを関係機関の担当者からも聞き取りをして情報を得ている。また、聞き取った内容は独自のアセスメントシートに記載して、職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日々の利用者の行動、言動等の観察に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の利用者の行動、言動等の観察に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	不安になった場面や言動など記録に記載して、対応などは職員間で話し合っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	日誌、朝礼などで職員間で共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	カンファレンス、面会時、日々の関わりにおいて検討している。	/	/	○	家族の面会時や電話連絡時に得られた情報のほか、職員が利用者との日々の関わりの中で把握した内容を基にしてチームで話し合い、利用者本人の視点に立ったサービス内容を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	カンファレンス、日々の関わりにおいて検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンス、日々の関わりにおいて検討している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	カンファレンス、日々の関わりにおいて検討しているが、すべての意向の実現は出来ていない。	/	/	/	事業所では、利用者の心身の向上や気持ちよく過ごしてもらえることを目指して関係者で話し合い、個性のある介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	カンファレンス、面会時、日々の関わりにおいて検討している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	カンファレンス・家族との会話からより良い環境作りを心掛けている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	本人・家族の要望に沿って、カンファレンスを行い検討している。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	カンファレンスや必要時は話し合いを持ち、口頭や連絡ノートを活用している。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画の内容はカンファレンスの中で話し合うことで共有ができており、職員は介護計画を意識した記録ができるよう努めている。ケア実施表には、サービスの実施内容を「○×」で記載し、モニタリングにも活用されている。個別の介護記録には支援内容のほか、利用者の言葉や表情、行動など、暮らしの様子が分かりやすく記録できている。また、職員の気づきやアイデア等についてもカンファレンスの中でも話し合われているが、個別記録にも残せるよう検討することを望みたい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	実践評価を毎日記録で行い、職員全員が閲覧・確認出来るようにしている。それをもとにカンファレンスを行っている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	記録を読んで、その時の様子が分かりやすく理解できるように心掛けている。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	口頭で話し合った上で、申し送りノートなどで周知し、実践してみても結果どうであったか記録に残している。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	カンファレンスを行い、よりよい介護を検討している。	/	/	◎	介護計画は3か月に1回見直しをしている。利用者の状況に変化が見られない場合も、毎月実施するモニタリングで現状を確認している。また、入院等暮らしの状態に変化があった場合には関係者で話し合い、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	個人カンファレンスの際、その他の利用者に関しても意見を交わしており、必要ならば見直しを行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	カンファレンスを行い、家族等関係各所と細やかな連絡を取り合っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	不定期ではあるが、必要に応じて行っている。	/	/	○	コロナ禍において、定期的にミーティングが開催できない時期もあったが、現在は月1回程度開催できるようになっている。緊急案件がある場合には、その都度話し合いをしている。また、参加できなかった職員には、会議録や申し送りノートを確認し、共有できるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	出席者全員の意見が聞けるよう、穏やかな雰囲気づくり・聞く側の口調などに気をつけている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	毎回全員参加は無理な為、参加できない職員は意見ノートに記入している。月替わりで参加職員が同じにならない様留意している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	◎	会議録を作成し、確認している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	◎	会議録を元に、検討したうえで連絡ノートに記入し伝えている。	/	/	○	利用者に関する事柄は日誌へ記載するほか、その他の職員への連絡事項は申し送りノートへの記載するなど、使い分けて伝達している。また、職員は申し送りノートなどの確認後にはサインをする仕組みとなっているが、職員のサイン漏れも見受けられた。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	ケース記録や日誌に記録し、正確に伝わるようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	個人の体調や気分により、したい事自体聞き出せないことがある。	/	/	/	入浴時などには、職員は事前に利用者へ声をかけて、希望や意向を確認している。衣服など自分で更衣できる利用者は自己決定することができているが、できない利用者の服は職員が選んでいる。午後3時等の湯船についても、職員が選んだものを一律で利用者へ提供しており、利用者一人ひとりが選べないと決めつけずに自己決定できる機会を増やすことを期待したい。また、現在のコロナ禍において敷地外等への外出制限が設けられているが、利用者の興味のある料理や裁縫、レクリエーションなどを取り入れたり、敷地内で花見などを楽しんだりできるよう工夫をしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	利用者の時間に合わせるようにはしているが、認知症の度合いにより不可能な場合がある。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	ゆったりした時間の流れを作り、会話をしやすい空間づくりを心掛けている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	利用者同士のトラブルを避ける為、順番を決めざるを得ない場合もある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	家事のお手伝いや畑作業にお誘いし、興味のあるものを楽しみとしてもらっている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	日々の関わり・観察から本人を知る努力をし支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	その方を知り、その方の価値観に合わせた介護・職員のあり方を考え実践していきたい。	○	○	○	毎月実施する法人内研修のテーマに人権や尊厳を取り入れ、職員は利用者への言葉かけや態度を意識した言動で対応することを学んでいる。不適切な言動に気づいた場合には職員間で注意し合い、再発防止に努めている。排泄後の着衣の乱れや、食べこぼしによる衣服の汚れなどが見られた場合にも、職員がさりげなくフォローしている。また、利用者が不在時の居室への入室は職員は事前に了解を得ることができているが、利用者の在室時には声かけと同時にドアを開ける職員がいる現状を管理者は認識しているため、改善されることを期待したい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	多くの人の中での行動はあまりないが、そのような場においては本人に合わせ見守るよう留意している。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	本人の表情・態度を観察しつつ、職員は不用意な発言や態度に気をつけ工夫をしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室する場合は、不在の時本人に声を掛け入室理由・許可を頂くようにしている。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	勉強会を開催・文章等作成したものを配布し、意識づけをしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者へ助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	日常生活において、その方の得意分野を探り意見を頂くことを心掛けている。	/	/	/	日々の生活において、職員は利用者のペースや行動を尊重して関わるようになっている。職員は利用者同士の関係性を把握し、配席にも留意している。また、職員は仲の良い利用者同士が関わり合えるよう配慮しているほか、トラブルを未然に防げるようトラブルの多い利用者の座席を固定して対応したり、食事以外は居室で過ごしたりしてもらおうなどの工夫をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らすことの大切さを理解している。	○	職員ではうめられない、時代背景や共感など必要だと理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	利用者の時間に合わせるようにはしているが、認知症の度合いにより不可能な場合がある。性格・行動を注意深く観察し、トラブルにならない様工夫をしている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員があいだに入り、話題転換や場面の転換をし解決に努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム森の園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	面会の家族や友人・本人から情報を頂いている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	家族との会話の中で知る事が出来、把握している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナウイルスの影響、また本人が混乱する事もあり、あまり実施できていない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナウイルスの影響で、面会制限があるが、面会時の職員の表情や態度に気をつけ、横柄な態度や口調・不快な印象を与えない様注意している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	日中においては、自由に外に出られるように心掛けている。	×	×	○	自然環境豊かな場所に複合施設・事業所はあるため、コロナ禍において様々な制限が設けられている中においても、利用者は自由に事業所の屋外に出ることができる。帰宅願望や屋外に出たい利用者には、職員が付き添い敷地内を散歩するなどの対応をしている。また、天気の良い日には重度な利用者も一緒に戸外に出て、気分転換が図れている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	実施していない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	気候の良い時には重度の方も戸外にて過ごす時間を作っている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	出掛けるように努めている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	全てではないが概ね出来ている。				更衣や排せつ時など、職員は利用者のできる所までは見守り、できない部分を介助するようにしている。また、利用者一人ひとりのアセスメントに基づいた内容が、介護計画のサービス内容にも反映され、支援内容を職員間で共有できるようにしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	全ての機能維持は難しいが、出来る範囲で行えている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る限りして頂いているが、介助する場面もある。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	全ての利用者ではないが家事などをして頂いている。				洗濯物を干しや畳みは、日常的に利用者自身の役割や仕事として実施できている。各ユニットで調理している食事の下ごしらえや食器拭きなどの家事も、職員は利用者に声をかけて出番づくりをしているほか、レクリエーションなどに積極的に参加して楽しんでいる男性利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	全ての利用者ではないが家事などをして頂いている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	実施出来ていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	整容については出来る限り自分でして頂くが、やはり介助等の場面もある。	/	/	/	食事の食べこぼしや着衣の乱れに関しては、職員は周囲の人に気づかれないうさりげなく支援している。また、重度の利用者も居室から出る際には、更衣をするよう心がけている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに合わせて整えられるように支援している。	○	本人の好みに合わせて支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	職員が選ぶ事が多い。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出時にはそれに合わせて服装を支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	概ね出来ている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	理容、美容の選択は行っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	概ね出来ている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	理解して提供している。	/	/	/	一昨年までは利用者と一緒に食材の買い出しに出かけていたが、コロナ禍において敷地外への外出制限が設けられたこともあり、現在の食材は外注となっている。献立は職員が考え、法人の栄養士にアドバイスをもらっている。職員は利用者の希望のメニューなどは事前に聞いてはいるが、利用者の好みを把握していることもあり、考慮した献立づくりをしている。調理の下ごしらえや片付けなどは職員と一緒にしている。持参した食器を使用している利用者もいるが、身体状況に応じて事業所で準備した使いやすいものに順次交換している。敷地内で収穫した旬の野菜も調理に取り入れたり、握り寿司など事業所で調理できないものはテイクアウトして提供したりする工夫もしている。また、職員は、以前は利用者と同じ食卓を囲んで見守りや介助しながら一緒に食事していたが、現在はコロナ禍もあり、離れた場所で見守りしながら別々に食事を摂っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者の出来るところを生かして行っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者出来る事をして頂くことで、つなげられている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	概ね出来ている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	概ね出来ている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使いやすい物を選んで使用してもらっている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	昼食時のみ実施していたが、コロナウイルスの為、食卓を囲むことが減少している。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	献立などを利用者へ話して雰囲気作りを行っている。	/	○	△	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	量など個人に合わせて提供している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	概ね取り組んでいる。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	実施できている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	実施できている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後口腔ケアを実施している。	/	/	/	毎食後、利用者は居室の洗面所で口腔ケアを実施している。義歯をしている利用者が多く、毎食後に洗浄しているほか、夜間に預かり洗浄液に浸けている。自分で歯磨きができる自立した利用者の口腔内の状況までは把握できていないため、定期的に利用者一人ひとりの口腔内の健康状況を確認し、記録に残すことを望みたい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際に確認している。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科受診時等で指導などがある際に学んでいる。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	実施できている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後の口腔ケアを実施。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	適宜家族様と相談して行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ある程度は理解している。	/	/	/	職員は、なるべく利用者がトイレで自立した排泄できるよう努めている。職員は利用者それぞれの排泄パターンを考慮し、時間を見て声をかけてトイレへ誘導したり、できないことの介助をしたりする工夫をしている。また、必要に応じて、排泄用品の使用についても利用者や家族と話し合い、適切なものを選んで使用できている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	ある程度は理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	把握して下剤などを調整している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	状態に合わせて支援している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	適宜、医師とも相談して行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	概ね行えている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の状態に合わせて、家族、本人に相談している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	状態に合わせて使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	果物の量などを調整している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	曜日や時間帯に関しては職員の都合になっているが、その他は利用者の希望に合わせている。	◎	/	○	概ね週2回程度、利用者が入浴ができるよう支援している。職員配置もあり、時間帯は事業所の都合となっているが、入浴時間や湯の温度などは利用者の希望に応じている。入浴を拒む利用者には、時間をずらして声かけをするなどの工夫をしている。また、中には4～5日に1回程度の入浴となっている利用者もあり、皮膚状態の観察や下着の交換等の視点からも、支援の再考を望みたい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	概ね実施できている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	概ね実施できている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	拒否等ある際は、無理強いせずに入浴の日を変更している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	その日の健康状態を把握して実施している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム森の園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	概ね出来ている。				利用者が夜間に良眠できるよう、職員は日中の活動を多くするなど支援に取り組んでいる。眠れない利用者にはリビングで職員と話したり、居室でテレビドラマを見たりするなど、自由に過ごしてもらっている。また、不眠が続く健康状態に悪影響があるような場合には、主治医と相談して眠剤を使用することもある。ほとんどの利用者は、眠剤等の服薬はしていない。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を多くするように努めているが、全員となると難しい。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	適宜医師と相談して行っている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々に合わせて昼寝など取り入れている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	偽装電話なども取り入れながら、家族の負担にならない程度に、電話の支援を行っている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	定期的に写真や手紙を送っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	家族の負担、利用者間の問題を考慮して行っている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	出来ていない。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	行っている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	トラブル防止のため、利用者には渡していない。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	作れていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	行えていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	行えていない。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時などお金の使い方について話し合っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	行っている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	本人、家族の状況に応じて、出来る限り対応している。		◎	△	現在のコロナ禍において、この1年間は外出制限も設けていることもあり、家族とのお墓参りや外食、外泊といった希望に添うことはできていない。外部への受診は家族の付き添いを原則としているが、遠方の家族には自費でヘルパーを手配したり、緊急の場合には職員が付き添ったりするなど、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	鉢植えを設置して気軽に出入り出来るようにしている。	◎	◎	◎	特別養護老人ホームやケアハウス、デイサービスなどの高齢者総合福祉施設の1階に事業所はあるが、それぞれの施設・事業所やユニット毎に玄関が設けられていることもあり、気軽に出入りしやすい環境となっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	装飾品など出来る限り家庭的な雰囲気作りを行っている。	○	○	○	現在はコロナ禍のため、ユニット間の利用者同士の交流はできないが、リビングから共有の中庭に出ることもできる構造となっている。複合施設の特徴を活かして、デイサービスのカラオケ設備を借りて楽しんでいたが、現在は自粛となっている。新型コロナウイルス感染症対策のため、テーブルを増やして利用者同士の間隔を開ける対応を取っているが、リビングは広くてゆとりがあり、ソファやテレビも置かれ、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。玄関には季節の花を飾っているほか、壁には利用者が作成したちぎり絵やこいのぼりの飾りつけがされており、季節を感じる事ができる。また、職員が毎日掃除し、コロナ禍で手すりは1日3回除菌するなど、清潔で心地よい空間づくりにも配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	行っている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	時期に合わせた掲示を行っている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	全室個室にて一人になれる居場所の確保をしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	出来ている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	使い慣れた物を、持ってきて頂き、居室などで使用している。	○			居室は洗面台や押入れの配置のほか、エアコンやベッドが設置されている。居室にはテレビやチェスト、いすなどを持ち込んだり、写真を飾ったりするなど、利用者にあった心地よく過ごせるな空間づくりがされている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室の場所など工夫している。			○	利用者が安全にできるだけ自立して生活できるよう、動線上に手すりを設置したり、迷わないように「便所」と分かりやすく表示したりしている。頻回にトイレに行く利用者には、トイレ近くの居室に変更するなどの配慮もしている。また、筆筒や衣装ケースには、入っている物が分かるように表示を貼る工夫をしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	利用者の居心地の良いようにしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	居室には置いているが、フロアにはあまり置かれていない。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	居室に鍵は掛けておらず、玄関も日中は鍵は掛けていない。	◎	◎	◎	職員は、鍵をかけることの弊害は理解できており、日中は鍵をかけず利用者は自由に入出入りすることができている。職員は利用者の安全面にも配慮して見守りをしており、屋外へ出たい利用者には付き添って、敷地内を散歩している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居時に家族様に説明等を行っている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関にセンサーを設置して、出入りの際に分かるようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	ほぼ出来ているが、全てを暗記は出来ていない。但し、すぐに調べられるようになっている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	適宜、かかりつけ医と相談を行っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診時などは、結果などを聞き取り、日誌等で伝達している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には介護サマリーを提出している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院関係者、家族と情報交換を行い、努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	適宜、相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	往診の利用者に関しては体制が出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日頃より利用者の健康管理、状態変化に留意して、早期発見に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	ほぼ出来ているが、全てを暗記は出来ていない。但し、すぐに調べられるようになっている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	内服前に職員2人で確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日頃より利用者の健康管理、状態変化に留意している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	手紙や直接相談等を行っている。				

愛媛県グループホーム森の園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時、状態変化時に話し合いを行っている。	/	/	/	急変時に事業所で看取り支援を行った事例はあるが、事業所として看取りは実施していない。事業所には看護師の配置がないため、医療行為が必要になった場合や要介護3以上に状態が変化した場合には、利用者や家族、関係者で話し合い方針を共有している。また、重度化した場合には、入院や他の施設等へ転院する利用者が多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	適宜、話し合いを行っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	十分な説明は行っているが、家族が全てを理解してくれているかは不安である。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	×	重度化、終末期については現在行っていない。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	面会、電話などの際に行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	定期的な研修を実施している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症マニュアルにそって対応。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	定期的に会議を開催して行っている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	定期的に会議を開催して行っている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	面会時など関係作りに努めている。				<p>一昨年末では、複合施設の夏祭りや正月前の餅つき行事などの開催時には家族も一緒に参加してもらっていたが、現在のコロナ禍において家族の面会が禁止となっていることもあり、実現には至っていない。利用者により、面会等ができていないため、家族の顔も忘れていたような様子も見受けられる。外部の医療機関の受診している利用者は、家族が付き添いを原則としているため2か月に1回程度会うことができているが、コロナ禍で受診控えて処方のみの場合などもあるため、事業所の窓越しで利用者の顔が見えるような配慮もしている。会えない利用者を心配する家族の声もあり、2か月に1回写真と手紙を送付し、利用者の様子を知らせている。法人・事業所として、コロナ禍の対応やワクチン接種などの報告できているが、以前から事業所での運営上の事柄や出来事などは報告しておらず、法人内の職員異動や退職についてもその都度の報告までではできていない。また、家族の意見や要望も1～2か月に1回の電話連絡時に聞くようにしていることもあり、家族に事業所を理解してもらい協力を得て、利用者を共に支え合うことができるよう積極的な関係づくりを期待したい。</p>
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	コロナウイルスの為制限がある。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナウイルスの為、現在は中止している。		×	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	行っている。		○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	出来る限り行っているが、全てを把握は出来ていないと思われる。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時には話しやすい環境作り、適宜、利用者と家族の間に入り話題の提供を行っている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	全ての報告までは出来ていない。		×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族同士の交流の機会はなかなか実施出来ていない。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時、面会時など話し合っているが、リスクについては全てを家族様が理解して頂いているか不安である。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	行っている。			△	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居時においては、退居先の相談等行うようにしている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	定期的な運営推進会議の開催において理解を図っている。	/	◎	/	一昨年末までは運営推進会議など活用して情報を得て、地域の餅まきや盆踊り、七夕祭りなどに利用者と一緒に参加し、地域住民や子供たちと交流の場を設けることができていた。また、法人の夏祭りや防災訓練の際にも、地域住民の参加協力も得ることができていた。現在はコロナ禍のため、外出制限もあり地域住民との交流は難しくなっているが、築き上げたネットワークが途絶えないように、地域への働きかけが継続されることを望みたい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	地域行事には積極的に参加するようにしている。但し今年度はコロナウィルスの為、実施出来ていない。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運動会、夏祭りなどの参加の際に支援してくれる方も増えている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	ほとんどない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	出来ていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	行えていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	あまり行えていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	行えていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	参加して下さっている。	/	×	△	コロナ禍においても、集合形式での運営推進会議の開催ができているが、利用者の参加はなく、家族の参加についても少なく、参加者も固定化されている。運営推進会議の趣旨を理解してもらい、多くの方の参加協力を得て、意見がもらえるような取組みを期待したい。会議では外部評価の報告やサービスの実施状況などを報告できているが、自己評価などの取組み状況までは報告はできていないため、今後は目標達成計画を作成して、取組み状況や結果などまで報告できるような取組みも期待したい。また、コロナ禍における利用者の生活の様子を写真や手紙で知らせるなど、会議で出された提案を実践できている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	サービス内容など報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	会議で出された意見などをしっかりとサービスに取り入れるようにしている。	/	/	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加メンバーに関して、やや偏りはあるが、日程等は配慮している。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	施設内に開示している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	出来る限り行うようにしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	揭示はしているが、伝わっているかは不明。	×	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	出来る限り参加してもらおうようにしているが、参加の機会は少ない。				コロナ禍以前には、代表者は毎日のように事業所に来訪があり、職員とも気軽に話をすることができていた。年1回職員はストレスチェックを実施するほか、異動希望などの意見書を提出することもできる。また、法人・事業所として、職員の外部研修への参加促進や資格取得への支援をするなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいることもあり、職員の離職率は低い。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員それぞれに役割を設定、勉強会の実施。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	年2回の人事評価表などで、各職員の現状を把握しつつ、職員とのコミュニケーションを多く取っている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	外部の研修などの参加を積極的に動いている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	日々のコミュニケーションを大事にしている。		○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	理解して提供している。				虐待や不適切なケアについて、職員は法人内研修等で学び理解している。不適切な行為を発見した場合には、職員から管理者に伝えて個別に指導したり、ミーティングで話し合ったりすることもある。これらの手順や対応方法が明確になっていないため、職員が統一した手順で対応できるようなマニュアル作成の検討を望みたい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々の業務時、またミーティングやカンファなど機会を作ってる。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	知っている。			△	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出来る限り把握に努めている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	会議などで説明はしているが、正しく全てを理解出来ているかは不明である。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	定期的に会議を行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	現状において要望はないが、あった場合は話し合いを重ね、理解を図る。				

愛媛県グループホーム森の園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	勉強会を行っているが、全てを理解しているかは不安である。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	行っていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	現行事例はないが、連絡においては行える体制は築いている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	今回事例はないが、速やかに対応する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	今回事例はないが、前向きな話し合いと関係づくりを行う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	機会は設けているが、全てを聞き取れてはいない。			○	利用者が意見や要望があれば、職員は居室で話を聞くことができているが、訴えの少ない利用者からも聞き取れるような工夫を望みたい。家族からは来訪時や電話連絡時に、職員から声をかけて意見を聞くようにしている。また、管理者は現場の業務も行っており、日頃から職員とできる限りコミュニケーションを図り、対応できるよう努めている。また、職員は代表者等にも意見を伝えることもできる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	面会時などによって機会をつくっている。		○	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約当初のみである。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	出勤時1回は現場に足を運んで様子を伺っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	出来る限り聴く機会を持ち、検討している。				

愛媛県グループホーム森の園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				外部評価の自己評価の作成は、職員全員で取り組んでいる。外部評価のサービス評価内容は運営推進会議で報告できているが、家族の参加は少なく、会議に参加していない家族までは報告できていない。すべての家族に外部評価の内容報告ができるよう運営推進会議の会議録を送付するなど、家族等とより良い事業所運営に向けて、取組みをモニターしてもらえそうな取組みも期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	現状や課題に対して活かしている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議等で報告して今後の取組みについて検討している。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	やや一過性のところがある。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	◎	マニュアル作成にて周知している。				高齢者総合福祉施設を含めた法人全体で、定期的に地域住民等も参加した大規模訓練を実施している。複合施設のため連携は取れているが、事業所単独での訓練は実施しておらず、話し合う機会も持っていない。今後は、避難訓練等の状況を家族に報告したり、運営推進会議の中で訓練について話し合ったりするなど、家族に安心してもらえるような工夫を望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回の避難訓練を実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	グループホーム単独では話し合う機会はやや少ない。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	あまり参加出来ていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	行っていない。				複合施設ということもあり、事業所としては、入居の申し込みや見学者の対応に留まり、現状では積極的な相談支援までには至っていない。事業所として、地域行事に参加して地域住民と交流したり、学生等の実習の受け入れたりしていることから、複合施設と協力をしながら、事業所としての認知症ケアの実践力を活かした取組みにも期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	申し込みや見学者に関しては行っているが、その他は行っていない。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	実習生など、受け入れを行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	△	地域の行事には参加している。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 4 月 27 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 17名	(依頼数) 17名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3871000224
事業所名 (ユニット名)	グループホーム森の園 Bユニット
記入者(管理者) 氏名	三好 功士
自己評価作成日	令和 2年 12月 28日

<p>【事業所理念】</p> <p>あの日 あの時 今その時を大切に 優しい心 敬う心 誠実な心で支援します</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>地域との関わりを多くする為、運営推進会議で出た場所への外出、地域の夏祭り、運動会、餅まきなど参加する機会を多く作った。職員の水準の向上の為、内外部の研修に出来る限り参加の機会を作ったが、もっと研修への参加は必要と思われる。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>特別養護老人ホームをはじめ、デイサービスなどを併設した高齢者総合福祉施設の建物の1階部分に事業所はあり、周辺は田園地帯が広がるなど自然豊かな環境にも恵まれている。現在のコロナ禍において様々な制限が設けられているが、環境を活かして利用者は自由に事業所の屋外に出て、敷地内を散歩するなどの気分転換が図れている。職員は、毎月実施する法人研修での学びの機会を持ち、意識の向上を図りながら利用者の自立支援に向けた取り組みを実践している。また、法人・事業所として、働きやすい職場環境づくりに取り組んでおり、職員の離職率も低い。なお、現在のコロナ禍において、訪問調査を数回延期せざるを得なかったこと、外部からの入室制限等を設けていることもあり、事業所外の建物を活用して聞き取り等の訪問調査を実施している。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時、面会時など家族様からの聞き取り、利用者との会話にて把握に努めている。	○	/	△	日々の会話や関わりの中で、職員は利用者の思いや意向を把握するように努めている。利用者から出された新たな要望や意向の変化については申し送り時にも伝達しているが、得られた情報を利用者のアセスメントシートに追記するなど、職員間で共有できやすい方法を検討することを望みたい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日々の利用者の行動、言動等の観察に努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入居時、面会、カンファレンス等の際に話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	行っている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員各自からの視点で観察を行い、日誌、記録、朝礼などを利用して行っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前、入居時に聞き取りを行っている。	/	/	○	入居に際して、職員は利用者や家族から生活歴や生活環境などを聞き取るほか、これまでのサービス利用の状況などを関係機関の担当者からも聞き取りをして情報を得ている。また、聞き取った内容は独自のアセスメントシートに記載して、職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日々の利用者の行動、言動等の観察に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の利用者の行動、言動等の観察に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	不安になった場面や言動など記録に記載して、対応などは職員間で話し合っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	日誌、朝礼などで職員間で共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	カンファレンス、面会時、日々の関わりにおいて検討している。	/	/	○	家族の面会時や電話連絡時に得られた情報のほか、職員が利用者との日々の関わりの中で把握した内容を基にしてチームで話し合い、利用者本人の視点に立ったサービス内容を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	カンファレンス、日々の関わりにおいて検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンス、日々の関わりにおいて検討している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム森の園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	カンファレンス、日々の関わりにおいて検討しているが、すべての意向の実現は出来ていない。	/	/	/	事業所では、利用者の心身の向上や気持ちよく過ごしてもらえることを目指して関係者で話し合い、個性のある介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	カンファレンス、面会時、日々の関わりにおいて検討している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	カンファレンス・家族との会話からより良い環境作りを心掛けている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	本人・家族の要望に沿って、カンファレンスを行い検討している。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	カンファレンスや必要時は話し合いを持ち、口頭や連絡ノートを活用している。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画の内容はカンファレンスの中で話し合うことで共有ができており、職員は介護計画を意識した記録ができるよう努めている。ケア実施表には、サービスの実施内容を「○×」で記載し、モニタリングにも活用されている。個別の介護記録には支援内容のほか、利用者の言葉や表情、行動など、暮らしの様子が分かりやすく記録できている。また、職員の気づきやアイデア等についてもカンファレンスの中でも話し合われているが、個別記録にも残せるよう検討することを望みたい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	実践評価を毎日記録で行い、職員全員が閲覧・確認出来るようにしている。それをもとにカンファレンスを行っている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	記録を読んで、その時の様子が分かりやすく理解できるように心掛けている。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	口頭で話し合った上で、申し送りノートなどで周知し、実践してみても結果どうであったか記録に残している。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	カンファレンスを行い、よりよい介護を検討している。	/	/	◎	介護計画は3か月に1回見直しをしている。利用者の状況に変化が見られない場合も、毎月実施するモニタリングで現状を確認している。また、入院等暮らしの状態に変化があった場合には関係者で話し合い、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	個人カンファレンスの際、その他の利用者に関しても意見を交わしており、必要ならば見直しを行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	カンファレンスを行い、家族等関係各所と細やかな連絡を取り合っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	不定期ではあるが、必要に応じて行っている。	/	/	○	コロナ禍において、定期的にミーティングが開催できない時期もあったが、現在は月1回程度開催できるようになっている。緊急案件がある場合には、その都度話し合いをしている。また、参加できなかった職員には、会議録や申し送りノートを確認し、共有できるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	出席者全員の意見が聞けるよう、穏やかな雰囲気づくり・聞く側の口調などに気をつけている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	毎回全員参加は無理な為、参加できない職員は意見ノートに記入している。月替わりで参加職員が同じにならない様留意している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	◎	会議録を作成し、確認している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	◎	会議録を元に、検討したうえで連絡ノートに記入し伝えている。	/	/	○	利用者に関する事柄は日誌へ記載するほか、その他の職員への連絡事項は申し送りノートへの記載するなど、使い分けて伝達している。また、職員は申し送りノートなどの確認後にはサインをする仕組みとなっているが、職員のサイン漏れも見受けられた。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	ケース記録や日誌に記録し、正確に伝わるようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	個人の体調や気分により、したい事自体聞き出せないことがある。	/	/	/	入浴時などには、職員は事前に利用者へ声をかけて、希望や意向を確認している。衣服など自分で更衣できる利用者は自己決定することができているが、できない利用者の服は職員が選んでいる。午後3時等の湯船についても、職員が選んだものを一律で利用者へ提供しており、利用者一人ひとりが選べないと決めつけずに自己決定できる機会を増やすことを期待したい。また、現在のコロナ禍において敷地外等への外出制限が設けられているが、利用者の興味のある料理や裁縫、レクリエーションなどを取り入れたり、敷地内で花見などを楽しんだりできるよう工夫をしている。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	利用者の時間に合わせるようにはしているが、認知症の度合いにより不可能な場合がある。	/	/	/		△	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	ゆったりした時間の流れを作り、会話をしやすい空間づくりを心掛けている。	/	/	/		/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	利用者同士のトラブルを避ける為、順番を決めざるを得ない場合もある。	/	/	/		/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	家事のお手伝いや畑作業にお誘いし、興味のあるものを楽しみとしてもらっている。	/	/	/		/	○
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	日々の関わり・観察から本人を知る努力をし支援している。	/	/	/		/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	その方を知り、その方の価値観に合わせた介護・職員のあり方を考え実践していきたい。	/	○	○	○		
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	多くの人の中での行動はあまりないが、そのような場においては本人に合わせ見守るよう留意している。	/	/	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	本人の表情・態度を観察しつつ、職員は不用意な発言や態度に気をつけ工夫をしている。	/	/	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室する場合は、不在の時本人に声を掛け入室理由・許可を頂くようにしている。	/	/	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	勉強会を開催・文章等作成したものを配布し、意識づけをしている。	/	/	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者へ助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	日常生活において、その方の得意分野を探り意見を頂くことを心掛けている。	/	/	/	/		
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らすことの大切さを理解している。	○	職員ではうめられない、時代背景や共感など必要だと理解している。	/	/	/	/		
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	利用者の時間に合わせるようにはしているが、認知症の度合いにより不可能な場合がある。性格・行動を注意深く観察し、トラブルにならない様工夫をしている。	/	/	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員があいだに入り、話題転換や場面の転換をし解決に努めている。	/	/	/	/	/	

愛媛県グループホーム森の園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	面会の家族や友人・本人から情報を頂いている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	家族との会話の中で知る事が出来、把握している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナウイルスの影響、また本人が混乱する事もあり、あまり実施できていない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナウイルスの影響で、面会制限があるが、面会時の職員の表情や態度に気をつけ、横柄な態度や口調・不快な印象を与えない様注意している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	日中においては、自由に外に出られるように心掛けている。	×	×	○	自然環境豊かな場所に複合施設・事業所はあるため、コロナ禍において様々な制限が設けられている中においても、利用者は自由に事業所の屋外に出ることができる。帰宅願望や屋外に出たい利用者には、職員が付き添い敷地内を散歩するなどの対応をしている。また、天気の良い日には重度な利用者も一緒に戸外に出て、気分転換が図れている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	実施していない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	気候の良い時には重度の方も戸外にて過ごす時間を作っている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	出掛けるように努めている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	全てではないが概ね出来ている。				更衣や排せつ時など、職員は利用者のできる所までは見守り、できない部分を介助するようにしている。また、利用者一人ひとりのアセスメントに基づいた内容が、介護計画のサービス内容にも反映され、支援内容を職員間で共有できるようにしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	全ての機能維持は難しいが、出来る範囲で行えている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る限りして頂いているが、介助する場面もある。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	全ての利用者ではないが家事などをして頂いている。				洗濯物を干しや畳みは、日常的に利用者自身の役割や仕事として実施できている。各ユニットで調理している食事の下ごしらえや食器拭きなどの家事も、職員は利用者に声をかけて出番づくりをしているほか、レクリエーションなどに積極的に参加して楽しんでいる男性利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	全ての利用者ではないが家事などをして頂いている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	実施出来ない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	整容については出来る限り自分でして頂くが、やはり介助等の場面もある。	/	/	/	食事の食べこぼしや着衣の乱れに関しては、職員は周囲の人に気づかれぬようさりげなく支援している。また、重度の利用者も居室から出る際には、更衣をするよう心がけている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに合わせて整えられるように支援している。	○	本人の好みに合わせて支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	職員が選ぶ事が多い。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出時にはそれに合わせて服装を支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたり上げなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	概ね出来ている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	理容、美容の選択は行っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	概ね出来ている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	理解して提供している。	/	/	/	一昨年までは利用者と一緒に食材の買い出しに出かけていたが、コロナ禍において敷地外への外出制限が設けられたこともあり、現在の食材は外注となっている。献立は職員が考え、法人の栄養士にアドバイスをもらっている。職員は利用者の希望のメニューなどは事前に聞いてはいるが、利用者の好みを把握していることもあり、考慮した献立づくりをしている。調理の下ごしらえや片付けなどは職員と一緒にしている。持参した食器を使用している利用者もいるが、身体状況に応じて事業所で準備した使いやすいものに順次交換している。敷地内で収穫した旬の野菜も調理に取り入れたり、握り寿司など事業所で調理できないものはテイクアウトして提供したりする工夫もしている。また、職員は、以前は利用者と同じ食卓を囲んで見守りや介助しながら一緒に食事していたが、現在はコロナ禍もあり、離れた場所で見守りしながら別々に食事を摂っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者の出来るところを生かして行っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者出来る事をして頂くことで、つなげられている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	概ね出来ている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	概ね出来ている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使いやすい物を選んで使用してもらっている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	昼食時のみ実施していたが、コロナウイルスの為、食卓を囲むことが減少している。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	献立などを利用者へ話して雰囲気作りを行っている。	/	○	△	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	量など個人に合わせて提供している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	概ね取り組んでいる。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	実施できている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	実施できている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後口腔ケアを実施している。				毎食後、利用者は居室の洗面所で口腔ケアを実施している。義歯をしている利用者が多く、毎食後に洗浄しているほか、夜間に預かり洗浄液に浸けている。自分で歯磨きができる自立した利用者の口腔内の状況までは把握できていないため、定期的に利用者一人ひとりの口腔内の健康状況を確認し、記録に残すことを望みたい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際に確認している。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科受診時等で指導などがある際に学んでいる。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	実施できている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後の口腔ケアを実施。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	適宜家族様と相談して行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ある程度は理解している。				職員は、なるべく利用者がトイレで自立した排泄できるよう努めている。職員は利用者それぞれの排泄パターンを考慮し、時間を見て声をかけてトイレへ誘導したり、できないことの介助をしたりする工夫をしている。また、必要に応じて、排泄用品の使用についても利用者や家族と話し合い、適切なものを選んで使用できている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	ある程度は理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	把握して下剤などを調整している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	状態に合わせて支援している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	適宜、医師とも相談して行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	概ね行えている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の状態に合わせて、家族、本人に相談している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	状態に合わせて使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	果物の量などを調整している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	曜日や時間帯に関しては職員の都合になっているが、その他は利用者の希望に合わせている。	◎		○	概ね週2回程度、利用者が入浴ができるよう支援している。職員配置もあり、時間帯は事業所の都合となっているが、入浴時間や湯の温度などは利用者の希望に応じている。入浴を拒む利用者には、時間をずらして声かけをするなどの工夫をしている。また、中には4～5日に1回程度の入浴となっている利用者もあり、皮膚状態の観察や下着の交換等の視点からも、支援の再考を望みたい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	概ね実施できている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	概ね実施できている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	拒否等ある際は、無理強いせずに入浴の日を変更している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	その日の健康状態を把握して実施している。				

愛媛県グループホーム森の園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	概ね出来ている。				利用者が夜間に良眠できるよう、職員は日中の活動を多くするなど支援に取り組んでいる。眠れない利用者にはリビングで職員と話したり、居室でテレビドラマを見たりするなど、自由に過ごしてもらっている。また、不眠が続く健康状態に悪影響があるような場合には、主治医と相談して眠剤を使用することもある。ほとんどの利用者は、眠剤等の服薬はしていない。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を多くするように努めているが、全員となると難しい。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	適宜医師と相談して行っている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々に合わせて昼寝など取り入れている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	偽装電話なども取り入れながら、家族の負担にならない程度に、電話の支援を行っている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	定期的に写真や手紙を送っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	家族の負担、利用者間の問題を考慮して行っている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	出来ていない。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	行っている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	トラブル防止のため、利用者には渡していない。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	作れていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	行えていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	行えていない。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時などお金の使い方について話し合っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	行っている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	本人、家族の状況に応じて、出来る限り対応している。		◎	△	現在のコロナ禍において、この1年間は外出制限も設けていることもあり、家族でのお墓参りや外食、外泊といった希望に添うことはできていない。外部への受診は家族の付き添いを原則としているが、遠方の家族には自費でヘルパーを手配したり、緊急の場合には職員が付き添ったりするなど、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	鉢植えを設置して気軽に出入り出来るようにしている。	◎	◎	◎	特別養護老人ホームやケアハウス、デイサービスなどの高齢者総合福祉施設の1階に事業所はあるが、それぞれの施設・事業所やユニット毎に玄関が設けられていることもあり、気軽に出入りしやすい環境となっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	装飾品など出来る限り家庭的な雰囲気作りを行っている。	○	○	○	現在はコロナ禍のため、ユニット間の利用者同士の交流はできないが、リビングから共有の中庭に出ることもできる構造となっている。複合施設の特徴を活かして、デイサービスのカラオケ設備を借りて楽しんでいたが、現在は自粛となっている。新型コロナウイルス感染症対策のため、テーブルを増やして利用者同士の間隔を開ける対応を取っているが、リビングは広くてゆとりがあり、ソファやテレビも置かれ、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。玄関には季節の花を飾っているほか、壁には利用者が作成したちぎり絵やこいのぼりの飾りつけがされており、季節を感じる事ができる。また、職員が毎日掃除し、コロナ禍で手すりは1日3回除菌するなど、清潔で心地よい空間づくりにも配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	行っている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	時期に合わせた掲示を行っている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	全室個室にて一人になれる居場所の確保をしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	出来ている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	使い慣れた物を、持ってきて頂き、居室などで使用している。	○			居室は洗面台や押入れの配置のほか、エアコンやベッドが設置されている。居室にはテレビやチェスト、いすなどを持ち込んだり、写真を飾ったりするなど、利用者にあった心地よく過ごせるな空間づくりがされている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室の場所など工夫している。			○	利用者が安全にできるだけ自立して生活できるよう、動線上に手すりを設置したり、迷わないように「便所」と分かりやすく表示したりしている。頻回にトイレに行く利用者には、トイレ近くの居室に変更するなどの配慮もしている。また、筆筒や衣装ケースには、入っている物が分かるように表示を貼る工夫をしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	利用者の居心地の良いようにしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	居室には置いているが、フロアにはあまり置かれていない。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	居室に鍵は掛けておらず、玄関も日中は鍵は掛けていない。	◎	◎	◎	職員は、鍵をかけることの弊害は理解できており、日中は鍵をかけず利用者は自由に入出入りすることができている。職員は利用者の安全面にも配慮して見守りをしており、屋外へ出たい利用者には付き添って、敷地内を散歩している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居時に家族様に説明等を行っている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関にセンサーを設置して、出入りの際に分かるようにしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	ほぼ出来ているが、全てを暗記は出来ていない。但し、すぐに調べられるようになっている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	適宜、かかりつけ医と相談を行っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診時などは、結果などを聞き取り、日誌等で伝達している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には介護サマリーを提出している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院関係者、家族と情報交換を行い、努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	適宜、相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	往診の利用者に関しては体制が出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日頃より利用者の健康管理、状態変化に留意して、早期発見に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	ほぼ出来ているが、全てを暗記は出来ていない。但し、すぐに調べられるようになっている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	内服前に職員2人で確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日頃より利用者の健康管理、状態変化に留意している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	手紙や直接相談等を行っている。				

愛媛県グループホーム森の園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時、状態変化時に話し合いを行っている。	/	/	/	急変時に事業所で看取り支援を行った事例はあるが、事業所として看取りは実施していない。事業所には看護師の配置がないため、医療行為が必要になった場合や要介護3以上に状態が変化した場合には、利用者や家族、関係者で話し合い方針を共有している。また、重度化した場合には、入院や他の施設等へ転院する利用者が多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	適宜、話し合いを行っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	十分な説明は行っているが、家族が全てを理解してくれているかは不安である。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	×	重度化、終末期については現在行っていない。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	面会、電話などの際に行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	定期的な研修を実施している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症マニュアルにそって対応。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	定期的に会議を開催して行っている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	定期的に会議を開催して行っている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	面会時など関係作りに努めている。				一昨年末では、複合施設の夏祭りや正月前の餅つき行事などの開催時には家族も一緒に参加してもらっていたが、現在のコロナ禍において家族の面会が禁止となっていることもあり、実現には至っていない。利用者により、面会等ができていないため、家族の顔も忘れていたような様子も見受けられる。外部の医療機関の受診している利用者は、家族が付き添いを原則としているため2か月に1回程度会うことができているが、コロナ禍で受診控えて処方のみの場合などもあるため、事業所の窓越しで利用者の顔が見えるような配慮もしている。会えない利用者を心配する家族の声もあり、2か月に1回写真と手紙を送付し、利用者の様子を知らせている。法人・事業所として、コロナ禍の対応やワクチン接種などの報告できているが、以前から事業所での運営上の事柄や出来事などは報告しておらず、法人内の職員異動や退職についてもその都度の報告までではできていない。また、家族の意見や要望も1～2か月に1回の電話連絡時に聞くようにしていることもあり、家族に事業所を理解してもらい協力を得て、利用者を共に支え合うことができるよう積極的な関係づくりを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	コロナウイルスの為制限がある。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナウイルスの為、現在は中止している。		×	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	行っている。		○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	出来る限り行っているが、全てを把握は出来ていないと思われる。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時には話しやすい環境作り、適宜、利用者と家族の間に入り話題の提供を行っている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	全ての報告までは出来ていない。		×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族同士の交流の機会はなかなか実施出来ていない。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	入居時、面会時など話し合っているが、リスクについては全てを家族様が理解して頂いているか不安である。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にしている。	◎	行っている。			△	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居時においては、退居先の相談等行うようにしている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	定期的な運営推進会議の開催において理解を図っている。	/	◎	/	一昨年末までは運営推進会議など活用して情報を得て、地域の餅まきや盆踊り、七夕祭りなどに利用者と一緒に参加し、地域住民や子供たちと交流の場を設けることができていた。また、法人の夏祭りや防災訓練の際にも、地域住民の参加協力も得ることができていた。現在はコロナ禍のため、外出制限もあり地域住民との交流は難しくなっているが、築き上げたネットワークが途絶えないように、地域への働きかけが継続されることを望みたい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	地域行事には積極的に参加するようにしている。但し今年度はコロナウィルスの為、実施出来ていない。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運動会、夏祭りなどの参加の際に支援してくれる方も増えている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	ほとんどない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	出来ていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	行えていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	あまり行えていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	行えていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	参加して下さっている。	/	×	△	コロナ禍においても、集合形式での運営推進会議の開催ができているが、利用者の参加はなく、家族の参加についても少なく、参加者も固定化されている。運営推進会議の趣旨を理解してもらい、多くの方の参加協力を得て、意見がもらえるような取組みを期待したい。会議では外部評価の報告やサービスの実施状況などを報告できているが、自己評価などの取組み状況までは報告はできていないため、今後は目標達成計画を作成して、取組み状況や結果などまで報告できるような取組みも期待したい。また、コロナ禍における利用者の生活の様子を写真や手紙で知らせるなど、会議で出された提案を実践できている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	サービス内容など報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	会議で出された意見などをしっかりとサービスに取り入れるようにしている。	/	/	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加メンバーに関して、やや偏りはあるが、日程等は配慮している。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	施設内に開示している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	出来る限り行うようにしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	揭示はしているが、伝わっているかは不明。	×	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	出来る限り参加してもらおうようにしているが、参加の機会は少ない。				コロナ禍以前には、代表者は毎日のように事業所に来訪があり、職員とも気軽に話をすることができていた。年1回職員はストレスチェックを実施するほか、異動希望などの意見書を提出することもできる。また、法人・事業所として、職員の外部研修への参加促進や資格取得への支援をするなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいることもあり、職員の離職率は低い。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員それぞれに役割を設定、勉強会の実施。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	年2回の人事評価表などで、各職員の現状を把握しつつ、職員とのコミュニケーションを多く取っている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	外部の研修などの参加を積極的に勧めている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	日々のコミュニケーションを大事にしている。		○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	理解して提供している。				虐待や不適切なケアについて、職員は法人内研修等で学び理解している。不適切な行為を発見した場合には、職員から管理者に伝えて個別に指導したり、ミーティングで話し合ったりすることもある。これらの手順や対応方法が明確になっていないため、職員が統一した手順で対応できるようなマニュアル作成の検討を望みたい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々の業務時、またミーティングやカンファなど機会を作ってる。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	知っている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出来る限り把握に努めている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	会議などで説明はしているが、正しく全てを理解出来ているかは不明である。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	定期的に会議を行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	現状において要望はないが、あった場合は話し合いを重ね、理解を図る。				

愛媛県グループホーム森の園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	勉強会を行っているが、全てを理解しているかは不安である。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	行っていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	現行事例はないが、連絡においては行える体制は築いている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	今回事例はないが、速やかに対応する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	今回事例はないが、前向きな話し合いと関係づくりを行う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	機会は設けているが、全てを聞き取れてはいない。			○	利用者が意見や要望があれば、職員は居室で話を聞くことができているが、訴えの少ない利用者からも聞き取れるような工夫を望みたい。家族からは来訪時や電話連絡時に、職員から声をかけて意見を聞くようにしている。また、管理者は現場の業務も行っており、日頃から職員とできる限りコミュニケーションを図り、対応できるよう努めている。また、職員は代表者等にも意見を伝えることもできる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	面会時などによって機会をつくっている。		○	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約当初のみである。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	出勤時1回は現場に足を運んで様子を伺っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	出来る限り聴く機会を持ち、検討している。			○	

愛媛県グループホーム森の園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				外部評価の自己評価の作成は、職員全員で取り組んでいる。外部評価のサービス評価内容は運営推進会議で報告できているが、家族の参加は少なく、会議に参加していない家族までは報告できていない。すべての家族に外部評価の内容報告ができるよう運営推進会議の会議録を送付するなど、家族等とより良い事業所運営に向けて、取組みをモニターしてもらえそうな取組みも期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	現状や課題に対して活かしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議等で報告して今後の取組みについて検討している。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	やや一過性のところがある。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアル作成にて周知している。				高齢者総合福祉施設を含めた法人全体で、定期的に地域住民等も参加した大規模訓練を実施している。複合施設のため連携は取れているが、事業所単独での訓練は実施しておらず、話し合う機会も持っていない。今後は、避難訓練等の状況を家族に報告したり、運営推進会議の中で訓練について話し合ったりするなど、家族に安心してもらえるような工夫を望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回の避難訓練を実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	グループホーム単独では話し合う機会はやや少ない。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	あまり参加出来ていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	行っていない。				複合施設ということもあり、事業所としては、入居の申し込みや見学者の対応に留まり、現状では積極的な相談支援までには至っていない。事業所として、地域行事に参加して地域住民と交流したり、学生等の実習の受け入れたりしていることから、複合施設と協力をしながら、事業所としての認知症ケアの実践力を活かした取組みにも期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	申し込みや見学者に関しては行っているが、その他は行っていない。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	実習生など、受け入れを行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の行事には参加している。			○	